

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 678 号	氏名	一ノ瀬 亨
学位審査委員	主 査	中込 治	
	副 査	森田 公一	
	副 査	安田 二郎	
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、ヒトへの感染性が不明瞭なウイルスで、養殖魚で流行するベータノダウイルスの感染宿主域と細胞内侵入機構を明らかにし、ヒトへの感染の可能性、および低分子ポリフェノール Oligonol の抗ベータノダウイルス作用を検討したものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>魚類由来細胞 E-11 と比較しながらヒトやマウス等の細胞株におけるベータノダウイルスの吸着、ゲノム複製、ウイルス産生の検討を行った。また、様々なエンドサイトーシス阻害剤を利用してベータノダウイルスの細胞内侵入機構の推定を行った。ベータノダウイルスに対する Oligonol の有効濃度、細胞毒性から選択性を評価し、さらに阻害機序の推定を行った。これらの研究手法はいずれも適切なものである。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>ヒト細胞においてベータノダウイルスの侵入・脱殻に関わる特異的因子の欠如を示唆する結果を得たこと、マウス細胞が感染に感受性であることを明らかにした。また、細胞内侵入にクラスリン依存性エンドサイトーシス機構が用いられていることを明らかにした。さらに、Oligonol がベータノダウイルスの細胞への吸着を阻害する可能性を示した。これらの成果はウイルス学的に興味深いばかりでなく、抗ベータノダウイルス薬開発への展開も大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文はウイルス学分野の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			